

市区町村名	愛媛県砥部町	担当部署	企画財政課
		電話番号	(089) 962-7250

1 取組事例名

コスト削減、見える化 予算特別枠の創設と広報誌 ①予算特別枠の創設 ②広報誌による公会計連載

2 取組期間

①平成 27 年度 ②平成 27 年度～

3 取組概要

まちの財政情報を多くの住民に知って貰う。

4 背景・目的

公共施設の更新問題、少子高齢化による税収の落ち込みや社会保障関係費の増など、これから様々な問題に直面する自治体運営。財政状況が良いうちから、いろいろな情報を住民に知って貰うことで、今後の自治体運営についての議論や意見交換などを通じて、今後の新たな取り組みがスムーズに実現できればと考える。

5 取組の具体的内容

①予算特別枠の創設

砥部町の平成 28 年度当初予算において、中長期的なコスト削減に繋がる事業に積極的に予算を配分するため、2,000 万円の予算要求特別枠を設定した。総務省からは、公会計による財務書類の予算編成への活用や中長期的なコストの「見える化」により、限られた財源を賢く使うものと評価され、同省ホームページにて行革優良事例として紹介された。削減効果の測定は、平成 28 年度決算分の施設別・事業別財務諸表で行うこととしている。

※総務省の行革優良事例に選ばれました。

②広報誌による公会計特集連載

砥部町の広報誌にて、多くの住民に公会計を知ってもらう取り組みを実施している。平成 27 年の広報 6 月号にて特集「公会計をもっと身近に！」を掲載したのを皮切りに、28 年度も公会計やアセットマネジメントについて連載を続けている。

※早稲田大学パブリックディスクロージャー表彰 2015 アウトリーチ部門で努力賞を受賞。アウトリーチ部門とは、財政情報の開示そのものではなく、住民の方に関心を持って頂くための啓発・啓蒙を主眼とした取り組みを評価する部門のことである。本町の取り組みに対して、2015 年から新しくこの部門が創設された。

〈公会計の予算編成への活用/愛媛県砥部町〉

【取組】

- ・平成28年度予算編成において、公会計を活用した「予算要求特別枠」を設定。
- ・中長期的なコスト減につながる事業（照明器具のLED化、高耐久性部材の導入等）については、通常の予算要求枠とは別枠での予算要求が可能。
- ・各部局は施設別の行政コスト計算書等の財務書類を審査資料として財政課に提出（中長期的なコスト減の立証）。

年間コスト比較（イメージ）

	初年度費用	以後年度費用	年間コスト削減効果
通常の照明器具	300万円	150万円	年間60万円のコスト減
LED照明器具	1,000万円	100万円	

※照明器具は、LED照明器具に置き換えることで、初期費用は高くなるが、長期的にはコスト削減効果が期待できる。

【効果】

- ・「予算要求特別枠」を創設することにより、財務書類を予算編成に積極的に活用するという意識の醸成が図られた。
- ・公会計による財務書類で中長期的なコスト（減価償却費等）を「見える化」して予算編成に活用することで戻られた財源を賢く使うことを促進。



6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

予算特別枠創設では、中長期的なコスト削減に繋がる取り組みに積極的に予算を配分した。広報誌による公会計連載では、とにかく分かりやすく見て貰えるよう配慮した。広報を通じて、バランスシート探検隊への参加呼びかけや実施結果なども報告し、イベントの楽しさを伝えている。

7 取組の効果・費用

予算特別枠創設により、職員には中長期的な視点でのコスト意識が醸成された。また、広報誌による公会計連載では、多くの住民が公会計について情報を知る機会をつくることができた。

費用はゼロ。人件費のみ。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

自治体の財政状況や会計資料などを住民に見てもらうことはとても難しい。これらの情報開示とともにイベントなども実施して情報の提供に努めていきたい。

9 今後の予定・構想

継続して情報を開示していくことで、少しずつでも良いから理解してくれる人を増やしていければと考える。

10 他団体へのアドバイス

住民に対しては、すぐに効果は見えなくてもいいが、財政状況が悪化する前からできるだけ多くの情報を伝えていくことは、とても大事なことでないかと考える。

11 取組について記載したホームページ

<http://www.town.tobe.ehime.jp/site/zaisei-jyoho-arukikata/>